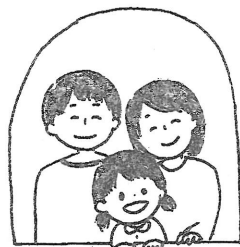


今年の中秋の名月は、厚い雲に隠れたり顔を出したりと、場所や時間によって様々だったようです。翌日、登園してきた子どもたちからは、

- ・お団子食べた
- ・お月見団子作った
- ・あんこののってるおもち食べた
- ・パパがお団子、買ってきて食べた
- ・ベランダで、お月さま出てくるのを待ってた
- ・(家族で) お空見ながら食べた、お月さまいなかった
- ・(車に乗っていて) ずっとお月さまついてきた



等とたくさん声があがり、中には、幼稚園に飾っているお花（萩・りんどう・菊・すすき・われもこう）を真似て、野の花をお家には飾っているという年長児がいたそうです。お家での様子や自分の気持ちを、年齢なりの自分の言葉で表現できることは大切なことだと思います。子どもが物事（何か）に気付く→感じる→言葉や態度で表現したくなる（伝えたくなる）には、刺激が多すぎてもいけませんし、大人のリズムではないゆったりとした子どもの生活の流れが大切です。子どもたちが話したくなる・伝えたくなるように、のんびりと向き合う時も大事にしたいものですね。夜空を見上げたあの時のように・・・。

25日。この日は満月なので、子どもたちは「今日は、きれいなお月さまが見られるかな・・・？」と楽しみに降園していきました。

多くの子どもたちが見上げているはずと思い、私も空を見上げると、まん丸お月さまが雲の中に光っているのがわかりました。雲の中でうっすらと輝く月の様子を子どもたちはどんな言葉で表現するだろう・・・とちょっぴり楽しみに思いながら帰路につきました。

21日（金）のお月見団子

昨年は、関大幼稚園でも感染力の強い結膜炎が流行したため、（眼科の先生の中には「開業以来初めてのこと」とおっしゃる程大流行したようです。）年長児にお団子を作らせるのは止めました。台所で作り、各担任が部屋で“お団子屋さん”になりました。

例年は、年長児が年中・年少児を年長のお部屋に招待し、お団子をふるまっていたのですが、今年は、年長児が自分のお部屋で団子を作り、出来たてのお団子を年中・年少児のお部屋に運び、給仕することにしました。

年長児は、お皿のお団子にきな粉をかける係、爪楊枝をそえる係、お茶を入れ、お盆にお茶とお団子をのせて運ぶ係を相談して決め、自分の役割をしっかりと務めていました。

自分のお部屋にエプロン姿の年長児がやって来て、甲斐甲斐しく働く姿をずっと目で追っていた年少児。年長児への仕事の説明を、まるで自分がするかのように真剣に聞き入っていた年中児。それぞれの成長の姿がしっかりと見てとれ、年長児は、年中・年少児の“あこがれの存在”になっていました。

春。年長になりたての頃は、お世話することが「おもしろい」「楽しい」という様子だった年長児が、今では楽しみに加え、お世話やお手伝いをする役目（役割）に対する「責任」を理解し、余裕を持って取り組めるようになっていました。園生活を重ねることで、【(かなしい体験も含めた) 生きる喜び】が年齢なりの自信となって、子どもの成長を支えているのですね。

お知らせ

台風24号が近畿地方に接近する予報が出ています。

10月1日（月）に警報が発令された時には、これまでと同様にメール配信します。

10月1日が休園になった場合、2019年度の入園本受付は、10月2日（火）10:30～11:00に変更します。